

岩根研究所(札幌) 画像技術で道路管理

アフリカ南部の市場照準

画像技術開発の岩根研究所(札幌)は、技術者不足などで道路管理に悩むアフリカ南部の国々で、独自開発した道路計測システムの普及に乗り出す。まずモザンビークで、10月に初のデモンストレーションを道路管理者向けに行つ。周辺国にも使いやすさをPRし、5年程度かけて採用を働きかける。

岩根研究所が開発した車載の道路計測システム。アフリカ南部の道路整備への活用を推し進める



10月 モザンビークでPR



システムは、死角のない特殊なカメラや衛星利用測位システム(GPS)を自動車に載せ、走行中の映像をハードディスク(記憶装置)に撮りためる。周囲360度を見渡せるパノラマ画像に加工して地図と連動させ、画面上での測量もできる。

時速80キロでも記録可能で、人手をかけなくても車を走らせるだけで、陥没など修繕が必要な道路を見極めることができる。

東南アジアや中東など10カ国で販売実績があり、香港では約4千キロの道路がこのシステムで記録された。新しい市場としてアフリカ南部に目を付けたのは、手入れが行き届かず荒れた道路が多い上、今後は舗装路が増え、道路管理が重要になるとみため。欧米の同業者の進出意欲も鈍く、商機があると判断した。

手始めに、国際協力機構(JICA)の支援を受けて、モザンビークで普及を図る。現地で円借款事業を手がけるオリエンタルコンサルタンツグローバル(東京)の協力で、同国の道路を走ってパノラマ画像を作り、国道などを管理する道路公社に使い方を指南する。2年後の正式採用を目指す。また、同国に隣接する南

アフリカ共和国やタンザニア、ザンビア、ジンバブエにも売り込みをかける。年明けには、各国の道路管理者を集めて説明会を開くほか、詳しい市場調査を進める。

える選択肢も提案するといふ。同社でアフリカの市場開拓を担当する秋山正樹取締役は「複雑なセンサーがなく、操作やメンテナンスも簡単だ。利便性を理解してもらい、現地の標準機材に育てたい」と意気込む。

システムを売ると最低1500万円かかるため、レンタル契約で導入費用を抑